

日本山岳写真協会 選抜展 「それぞれの山」

日 時／平成19年12月11日(火)～19日(水)

会 場／コニカミノルタプラザ ギャラリーC

1	槍ヶ岳 燦燦	池 田 栄 子
日本のマッターホルンと呼ばれ、登山者の人気が高い槍ヶ岳。一際高くそびえる姿は、まさしく北アルプスの盟主というにふさわしい山である。憧れと夢の槍ヶ岳は、夕日に岩壁を赤く染め、私の前に現れたのだった。私は足を肩幅に広げ、深く一呼吸し、シャッターを押しフィルムに閉じ込めた。		
2	遥かなる山稜	大 石 高 志
北アルプス、槍・穂高連峰は、日本の山岳の中でも特に人気がある山域で、夏のシーズンには多くの登山者で賑わっている。槍・穂高連峰の中でも一際目立つのが槍ヶ岳である。槍ヶ岳への登山ルートは、東鎌尾根、西鎌尾根、北鎌尾根、槍沢といろいろあるが、作品は西側ルート、西鎌尾根から槍ヶ岳を目指すコースでの撮影である。このコースは、高山植物や地塘がある一方、上部は岩稜となり、しかも、槍ヶ岳を終始眺めながらの登行でバラエティに富んでいる。		
3	霊峰石鎚・冬のドラマ	近 藤 博
石鎚山は西日本では第一位の峰で信仰の山である。冬季には季節風により笹が隠れるほどの積雪があり、樹木という樹木が霧氷の花を咲かせ、枯木立にも白い華を咲かせ、神秘的な美しさになる。石鎚山の天狗岳の様々な御来光シーンは、多くのカメラマンが一瞬の機会を狙う光景である。私もその光景を撮影することができたが、まさしく霊峰にふさわしい光景であった。		
4	春待つ尾瀬	鈴 木 進
”ほら、耳を澄ませてごらん……聞こえるでしょう？雪を割って流れる水の音が……” 夜明け……日の出を待つ霧氷たち。やがて冷たい光に輝き、そして、春を感じる暖かい光に移っていく。人影も無く足跡も無い銀世界。今、私一人だけのもの！		
5	動	鈴 木 隆 志
谷川岳は、北アルプスのように高い山ではないが、厳冬期ともなれば、1週間から10日間位は風雪が続くことがある。その雪も日本海側からの湿った重い雪である。そんな間隙を縫って撮影に出かける。山は動かない。当たり前のことである。しかし、取り巻く自然は刻々と変化し動いている。また、人も同じ。その「動」を表現した。		
6	樹に寄せる思い	瀬 戸 口 隆 司
私の山に対する憧れの気持ちは、山容の迫力もさることながら、樹々の美しさにも向けられている。とくに、ダケカンバにおいては、その樹形と光とが織り成す饗宴が、忘れ難い安らぎのひとつときをもたらしてくれる。山を歩む私は、今、樹々の息を聞き、樹々の声と共鳴している。		
7	黒部峡谷の秋	名 取 洋
黒部峡谷・下の廊下へ足を踏み入れられるのは秋に限られる。ちょうど、紅葉の盛りと時期を同じくする。樺平から、S字峡・半月峡・十字峡と黒部川を遡る。峡谷と岩峰、そして紅葉が織り成す姿が美しかった。		
8	冬の容貌 ー南八ヶ岳ー	福 田 泰 彦
降雪直後は、南八ヶ岳においても万物が白一色の世界と化する。急速に回復したまぶしい太陽が雪稜を照らす時、山容全てが感動あふれる光景となる。特に夕照には想像を絶するドラマがあり、チャンスは何時も突然現れ一瞬に消え去る。その瞬間に心臓は昂り、シャッターを押す手が震える。樹木の着雪にも感動の一コマが。		
9	残雪の恵み	前 羽 光 雄
奥飛騨、北アルプスの冬は大量の雪に覆われ、アルピニストをも寄せつけないほど厳しい。春から夏へと季節は移ろい、雪解けが進む。氷河期の名残りであるカールでは、やがてその雪解け跡から高山植物が芽吹き、ここぞとばかりに咲き誇る。これこそ、残雪の恵み。しかし、秋風とともに散りゆく儂い命。高山の夏は短く足早に通り返っていく。		
10	雪面の煌き	松 原 貴 代 司
私は雪面の煌きが好きだ。ファインダーをのぞいた時、ねらった雪つぶが輝いてくれた時、彼女との目と目が合った”ときめき”を感じ、胸が高まる。今回は、八ヶ岳・赤岩の頭で、格別のときめきに回り逢えた。		
11	ブ ナ ～移りゆく、生の彩～	三 木 俊 郎
日本の森、原風景。 森から湧き出る清水、豊富な木の実、動物たちに栄養を与える。 樹洞は、“うろ”と呼ばれるねぐらを提供する。ブナは、森に生きる者たちにとって、母のような存在である。		
12	天空の台風	梁 瀬 久 雄
「台風、穂高連峰直撃」情報で、早朝から山小屋は下山準備の人々でごった返す。今度こそ逃げずに台風気流に乗ってやろうと涸沢岳に立つ。強風に耐える。天空で雲が走る。涸沢から吹き上がる気流は、北穂高岳を這い上がり大キレットを越えて槍ヶ岳に体当たりする。前穂・奥穂も涸沢から湧き上がる気流に見え隠れし、その様は壮観である。しかも、気流の上空や奥座敷には時折青空がのぞきその瞬間を捉える。初めて見た天空の台風ドラマであった。幸い台風は穂高岳を掠め去り、夕焼け空のおまけつきで台風一過の心地よい山旅となった。		
13	精霊の森	矢 野 美 千 代
その昔、阿波の名峰「剣山」の表参道として賑わった行場から追分の間(標高1,700m)の森に、樹齢数百年の大桂の木が数本ある。修験者や信仰登山の人々を見守ってきたその木に初めて対峙した時、神々しさと力強い生命力に圧倒された。写真を撮るようになって、6×7判のカメラを買った時、まず撮ろうと思ったのがこの木だった。これからも四季折々に訪れ、森の精気を受け取り撮影し続けたい。		